

# PURITY ACTIVECLUSTER

## 概要

### 真のアクティブ / アクティブ

マルチサイト設計により  
両サイト同時 I/O が可能

### ゼロ RPO / RTO

あらゆる組織、ワークロードに  
ゼロ RPO / RTO を提供

### Pure1™ Cloud Mediator

第3のサイトや  
外部ゲートウェイは不要

### Purity//FA 5 に標準搭載

ライセンス不要、追加料金なし

### シンプル

わずか4ステップ、  
新規コマンド1つの簡単設定

### 高効率

インライン圧縮、XCOPY、  
スナップショット、クローン  
などの機能を利用

### アプリケーションワークロードの ライブマイグレーション

FlashArray 間で移行

### 高可用性データセンター

ラックをまたぐ構成が可能

### メトロ規模の事業継続性

キャンパス間の透過的な  
フェイルオーバー

### 3 データセンター構成のサポート

第3のサイトへの  
非同期レプリケーションが可能

データセンター、メトロエリア、グローバルに、一段上の高可用性を実現

ピュア・ストレージが提供する包括的な事業継続ソリューション、Purity ActiveCluster は、マルチサイト、アクティブ / アクティブのストレッチクラスタです。第3のサイトの構築、ハードウェアやライセンスの追加購入を必要とせず、設定はもの数分で完了します。最高レベルの可用性が容易に手軽に実現できます。

### 常にアクティブ / アクティブ

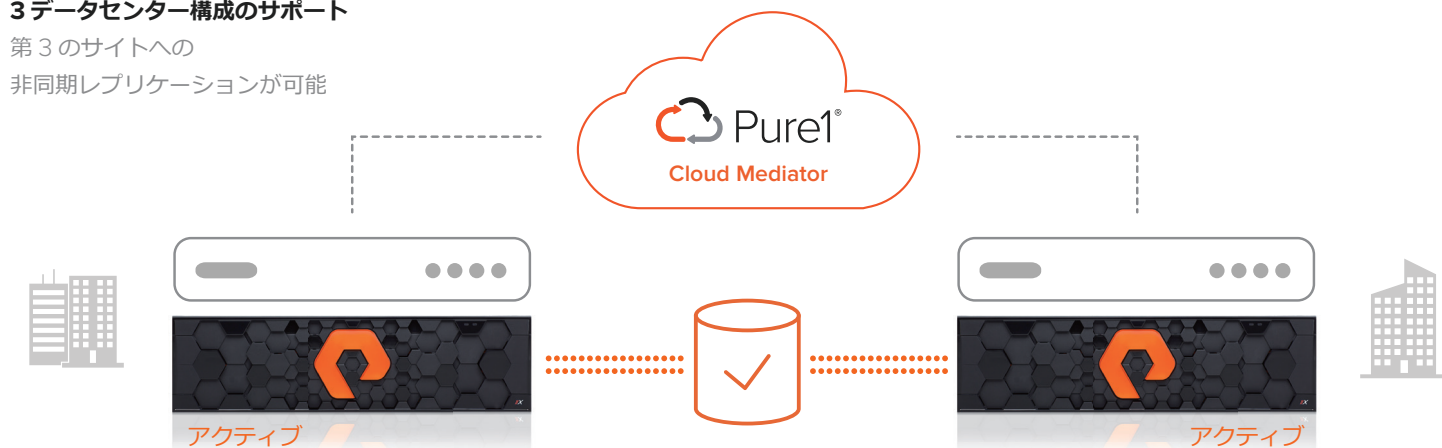
Purity ActiveCluster は、メインストリームのティア1環境に事業継続性を提供します。透過的なフェイルオーバーを可能にする真のアクティブ / アクティブ同期レプリケーションにより、労力をかけることなく2台のFlashArrayでゼロRPO / RTOを実現します。「アクティブ / アクティブ」をうたうソリューションのなかには、実際にはボリュームレベルではアクティブ / パッシブになっているものもありますが、ActiveClusterはそれらのソリューションとは異なり、1つのボリュームに対して両サイトからの同時読み書きが可能です。サイトでの仮想マシンやデータベースインスタンスのアフィニティ管理の複雑さの心配はありません。アプリケーションの遅延は、ローカルの読み取りに対して最適化されます。ActiveClusterは、転送するデータをインライン圧縮し、XCOPY操作、ZeroSnapスナップショットの作成、クローンの作成をアレイ間で効率的に行うことで、ストレージの効率性を維持します。

### 第3のサイトもゲートウェイも不要

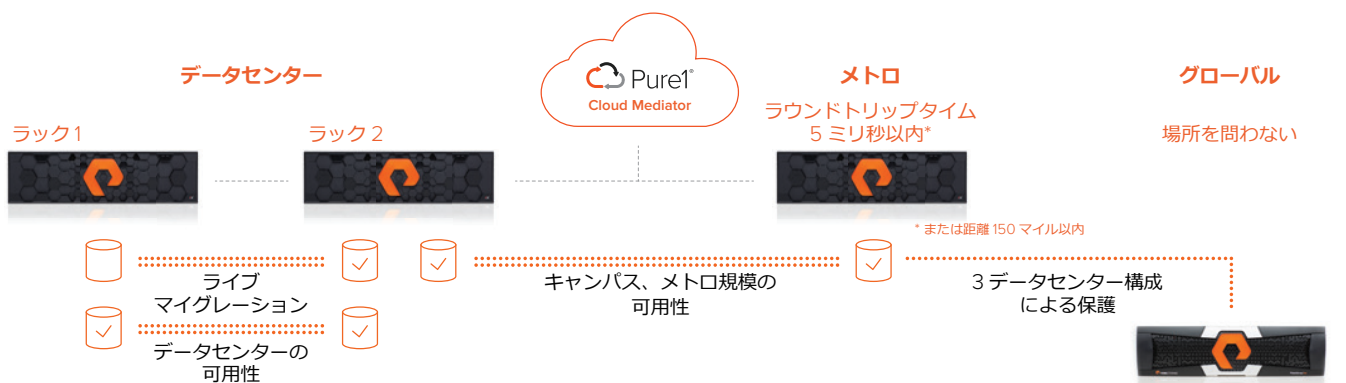
Purity ActiveClusterはFlashArrayに標準搭載されています。SaaSベースのクォーラム監視を行うPure1® Cloud Mediatorが含まれており、これが第3のサイトを不要にしています。フェイルオーバーは、安全、自動的、透過的に行われます。1台のアレイで障害が発生すると、Cloud Mediatorによって、ホストはもう1台のアレイのデータにアクセスできるようになります。

### 複雑さの解消とコスト削減

従来の同期レプリケーションとストレッチクラスタのソリューションは、複雑で、多大なコストがかかるものでした。設定に数日から数週間を要し、マニュアルは数百ページにおよんでいました。ライセンスの購入や、外部ゲートウェイの構築が必要で、かつ、外部のプロフェッショナルサービスが必要となるケースも少なくありませんでした。ActiveClusterは、このような手間やコストを不要にし、あらゆる環境の事業継続を支えます。



# Purity ActiveCluster はさまざまな用途に対応



## ライブマイグレーション

容量の拡張やパフォーマンスのニーズに応じてワークロードを移動

## データセンターの可用性

データセンター内での可用性を向上

## キャンパス、メトロ規模の可用性

1つのサイトで障害が発生しても、ActiveClusterが稼動状態を維持

## 3 データセンター構成による保護

3 データセンター構成におけるグローバルな保護を提供（第3のサイトへの非同期レプリケーション）

## 容易に利用可能

### 簡単な設定

Purity ActiveCluster は、FlashArray と同様にシンプルで使いやすいストレージ管理モデルを使用しています。ActiveCluster 用に新たにコマンドを1つ追加しました。設定はわずか 4 ステップ。アレイを接続し、拡張ポッドを作成し、ボリュームを作成して、ホストを接続します。これだけです。

#### 1. アレイの接続

```
> purearray connect --type sync-replication
```

#### 2. 拡張ポッドの作成

```
> purepod create pod1
> purepod add --array arrayB pod1
```

#### 3. ボリュームの作成

```
> purevol create --size 1T pod1::vol1
```

#### 4. ホストの接続

```
> purehost connect --vol pod1::vol1 host
```



### アプリケーションは継続実行

Purity ActiveCluster に展開した SAP、Oracle、Microsoft SQL Server などのミッションクリティカルなアプリケーションは、物理環境にあるか、VMware や Hyper-V などの仮想環境にあるかにかかわらず、障害が発生してもシームレスに実行を継続させることができます。

### 堅固な保護をあらゆる場所に

ActiveCluster を利用すると、障害への対応と復旧は、環境、アレイ、データセンター、ネットワークに対して透過的となります。また、再同期は自動的に行われます。接続が復旧すると、重複排除対応の非同期レプリケーションを使用してアレイが自動的に再同期し、再同期が完了すると、ボリュームへのアクセスが自動的に復旧します。



環境



アレイ



データセンター



ネットワーク